

Newsletter



NO. 73 1997. 10. 27

〒158 東京都世田谷区等々力 6-39-15 産能大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel 03-3704-9168 Fax03-3704-9456 <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsei>

第13回定時総会報告

8月8日(金)13:00からAST関西経理専門学校マーキュリーホールにおいて、日本教育情報学会第13回定時総会が開催されました。

正会員598名のうち123名の出席があり(委任状による出席を含む)、定款27条により総会は成立し、木田宏会長を議長として総会を開会しました。

提案された4議案

第1号議案 1996年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案 1997年度事業計画及び予算案の件

第3号議案 役員選任の件

第4号議案 「教育情報研究」及び「年会論文集」掲載論文の著作権(著作財産権)の学会集中の件

は、審議の結果、原案通り承認されましたことを、ご報告いたします。

(議案内容はNewsletter NO. 72をご参照ください)

また、総会議案の場において、翌日、表彰式がおこなわれた第1回ホームページコンテストについての趣旨の説明がされました。

さらに、木田会長から日本教育情報学会賞の制定について提案がなされ、詳細については、今後、運営委員会において検討することになりました。

日本教育情報学会第13回年会開催報告

日本教育情報学会第13回年会は、AST関西経理専門学校を会場に、8月8日（金）9日（土）の両日、約250名の方が参加して、国際ネットワーク教育学会との共催により開催されました。

シンポジウムは「学校・家庭・社会における教育提携のあり方について」をテーマとしました。教育連携のあり方については、各方面で議論されて久しいが、実際には、学校・家庭・地域が閉じた系となっていて、それぞれがお互いに一線を引いており、連携がほとんど進められていない。ハード的には学校を始め各施設内に生涯学習関連施設が設置される例も見られるようになってきたが、ソフト面での連携は、ハード以上に進められていないのが現状で、生涯学習等の教育関連施設間においても、まだ各施設間の相互交流まで至っていないという状況である。こういったことを踏まえ、「海外におけるインターネットの進展」「PTA・公民館との連携による学校教育の取り組み」「大学におけるインターネットと教育」「生涯学習情報提供システムの現状と今後」「インターネットと図書館」とそれぞれの立場の方から意見交換をし、満員のフロアからの質疑応答もあって、活気に満ちた討論を行いました。

課題研究は「学校・家庭・社会における教育提携のあり方について」「専門学校における情報教育の多様化」「インターネットの教育利用」「地域教材の製作と共同利用」の4テーマで19件が発表され、一般研究も「情報教育」「教材開発」「ネットワーク」などの分野で61件の日頃の研究成果の発表がありました。

今大会は、現在のホームページの普及の中で、ホームページのクオリティを高めるとともに、教育における利用を考えるため、特別企画として「第1回日本教育情報学会ホームページコンテスト」を開催しました。日本教育情報学会賞の兵庫県立芦屋高校の「震災と復興の記録」をはじめ部門賞、奨励賞として計8つが表彰されました。更に「私の推奨するホームページ」を募集し、推奨されたホームページを、会場で50台のパソコンを利用して提示しました。（ホームページコンテストの結果概要については教育情報研究第13巻2号に掲載いたします）

また、2日目の午後には、情報教養研究会主催の「学校教育実践フォーラム」も開催し、学校教育の中のインターネットの利用を中心に討論が行われました。

1日目終了後に会場を移して開かれた懇親会でも、ご自身の研究テーマやシンポジウムなどを話題に活発な話し合いの場として親睦が図られ、盛況に終えることができました。

年会成功のため準備から当日運営まで、お手数をおかけいたしました年会実行委員会の方々、並びに会場をお借りしましたAST関西経理専門学校の皆さまに、心からお礼申し上げます。

第13回年会論文集をご希望の方は事務局までお問合せください。

なお、98年度第14回年会につきましては、次号でお知らせいたします。

————— 学術情報センター電子図書館サービスへの参加について —————

第13回総会において、「教育情報研究」及び「年会論文集」掲載論文の著作権（著作財産権）の学会集中の件が承認されましたのことに伴い、学術情報センターの電子図書館サービスへ正式参加することになりました。このサービスの概要についてお知らせいたします。

学術情報センター電子図書館サービスは、我が国の学会が生産する学術情報を、さらに多くの研究者に、より迅速、的確に提供するものとして、平成9年4月から学術情報センターが本格開始したものです。このサービスは、学会が刊行する学会誌や論文誌の学術雑誌から、学術情報センターの経費負担で電子化した学術論文等の文字情報及び画像情報（これを「コンテンツ」といいます）を研究者に提供するものです。

コンテンツには、書誌データ（標題、著者名、著者所属機関、掲載雑誌情報、キーワード、抄録等、主として利用者の検索に利用される文字データ）と画像情報（学術雑誌のページの画像データで、表紙、裏表紙までの全てのページをスキャニングしたもの）があります。

平成9年度には利用者から利用料金は徴収しないため、学術雑誌の提供者である学会に著作権使用料は支払われません。平成9年度は個人ベース（国公立等の大学、短期大学、高等専門学校の教職員・大学院学生、大学共同利用機関等の教職員、電子図書館事業に協力する学協会〔学会誌を提供している学協会〕の正会員）の利用ですが、将来、大学、図書館等の組織単位の利用を認めるように利用資格の拡大を考えているようです。

このサービスをすすめていく場合、学会からの学術雑誌等に掲載されている論文記事等に掲載されている論文記事の著作権（著作財産権）が学会に集中されている必要がありますが、今回の総会で承認されましたので、参加が可能となりました。

- このサービスを利用するためには、個々に利用者登録申請をする必要があります。ご希望の方は、学術情報センターに利用申請書を請求してください。

利用申請書の請求・送付先

以下のいずれかの方法により、利用申請ができます。

- ・利用申請書を学術情報センターに郵送する。
- ・申請内容を電子メールで送付する。
- ・WWWにより申請する。

| | |
|----------------------|---|
| 郵 送 | 〒112 東京都文京区大塚3-29-1 学術情報センター管理部共同利用課 |
| W W W または 電 子 メール | http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html の利用申請のページを参照してください |

問い合わせ先

| | |
|-------------------------|---|
| 電子図書館全般に 関 する こと | 事業部データベース課 Tel 03-3942-6977~8 Fax 03-3942-0993 E-mail: els@nacsis.ac.jp |
| 利 用 申 請 に 関 する こと | 管理部共同利用課 Tel 03-3942-6933~4 Fax 03-3942-6797 E-mail: kyouri@ad.nacsis.ac.jp |
| 電 子 図 書 館 に 関 する 情 報 | NACSIS-ELSホームページ http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html |

電子図書館サービスの実施状況

この4月から提供を開始した学術情報センター電子図書館サービスの状況についてお知らせします。

1. 収録コンテンツの状況

収録対象は、9月初め現在で、人文科学、経済学、理学、工学、農学、医学の6分野の22学会44誌の発行する学会誌・論文誌となっています。これらの学会のうち12学会26誌の学会誌・論文誌を収録しています。今後、順次登録を行い、利用可能といたします。

| 学会名 Societies | 雑誌名 Journals | 範囲 Years covered | |
|-----------------------------|--|----------------------|-------------------------------|
| | | 収録済 | 収録予定 |
| 第1部 人文科学 Humanities | | | |
| 日本独文学会 | ドイツ文学 | 97号(1996) | 98号(1997)～ |
| 日本フランス語フランス文学会 | Études de Langue et Littérature Françaises = フランス語フランス文学研究 | 69号(1996), 70号(1997) | 1号(1962)～ |
| 日本教育学会 | 教育学研究 | | 第64巻(1997)～ |
| 日本教育情報学会 | 教育情報研究 | | 第1巻(1985)～ |
| | 年會論文集 | | 5回(1989)～ |
| 美術科教育学会 | 美術教育学 | | 第18号(1997)～ |
| 日本体育学会 | 体育学研究 | 第40巻(1995～1996) | 第1巻(1951)～ |
| (財)史学会 | 史学雑誌 | | 65頁(1976)～100頁(1991) |
| ロシア史研究会 | ロシア史研究 | 54号(1994)～59号(1996) | 1号(1960)～ |
| 第2部 法学 Law | | | |
| 第3部 経済学 Economics | | | |
| オフィス・オートメーション学会 | オフィス・オートメーション(情報系を含む) | | 第1巻(1980)～ |
| 第4部 理学 Pure Sciences | | | |
| 日本生物物理学会 | 生物物理 | 第35巻(1995) | 第30巻(1990)～ |
| (社)日本気象学会 | 天気 | 第42巻(1995) | 第40巻(1993)～ |
| | Journal of the Meteorological Society of Japan | Vol.73(1995) | Vol.71(1993)～ |
| 第5部 工学 Engineering | | | |
| (社)人工知能学会 | 人工知能学会誌 | 第10巻(1995) | 第1巻(1986)～ |
| (社)電子情報通信学会 | 電子情報通信学会誌 | 第78巻(1995) | 第76巻(1993)～ |
| | 電子情報通信学会論文誌, A-D-II | 第78巻(1995) | 第76巻(1993)～ |
| | IEICE Transactions, A-D | Vol.78(1995) | Vol.76(1993)～ |
| | 電子情報通信学会技術研究報告 | | (1993)～ |
| | 電子情報通信学会大会講演論文集 | | (1994)～ |
| (社)情報処理学会 | 情報処理 | 第36巻(1995) | 第1巻(1960)～ |
| | 情報処理学会論文誌 | 第36巻(1995) | 第20巻(1979)～ |
| | Journal of Information Processing | | Vol.1(1978)～ Vol.15(1993) |
| | Information Processing in Japan | | Vol.15(1978)～ Vol.17(1977) |
| | 情報処理学会研究報告 | | Vol.98, No.32(1993)～ |
| (社)情報処理学会全国大会講演論文集 | | Vol.33(1986)～ | |
| (社)情報科学技術協会 | 情報の科学と技術 | 第45巻(1995) | 第40巻(1990)～ |
| (社)日本音響学会 | 日本音響学会誌 | 第51巻(1995) | 第1巻(1939)～ |
| | The Journal of the Acoustical Society of Japan | Vol.16(1995) | Vol.1(1980)～ |
| 第6部 農学 Agriculture | | | |
| (社)日本獣医学学会 | The Journal of Veterinary Medical Science | | Vol.1(1939)～ |
| (社)日本家政学会 | 日本家政学会誌 | 第46巻(1995) | 第31巻4号(1980)～ |
| 第7部 医学 Medicine | | | |
| 日本脳神経外科学会 | Neurologia medico-chirurgica | | Vol.1(1959)～ |
| 日本消化器外科学会 | 日本消化器外科学会雑誌 | | 第1巻(1969)～ |
| 大阪歯科大学 | 歯科医学 | | 第53巻(1990)～ |
| | Journal of Osaka Dental University | | Vol.24(1990)～ |
| 日本トキシコロジー学会 | Journal of Toxicological Sciences | | Vol.1(1976)～ |

NACSIS-ELSの利用に必要な環境

平成9年6月現在

- インターネットへのアクセスが可能であること
- コンピュータと必要なソフトウェア
 1. UNIX ワークステーション
 - 1.1 SUN Microsystems社製または同互換のワークステーション
 - OS : SunOS 4.1.X 上の X11R5 または X11R6
または、Solaris 2.X 上の X11R5, X11R6 または Openwindows
 - 専用ソフトウェア : Z39.50対応専用ブラウザ
 - 1.2 NEC社製ワークステーション (EWS 4800) [予定]
 - OS : EWS-UX/V 4.2MP
 - 専用ソフトウェア : Z39.50対応専用ブラウザ [開発予定]
 - 1.3 Hewlett Packard社製ワークステーション (HP 9000) [予定]
 - OS : HP-UX
 - 専用ソフトウェア : Z39.50対応専用ブラウザ [開発予定]
 2. パーソナルコンピュータ
 - 2.1 DOS/V パーソナルコンピュータ
 - OS : Microsoft Windows95
または、Microsoft WindowsNT3.51以上
 - 必要なソフトウェア : Netscape Navigator Version 2以上
または、Microsoft Internet Explorer Version 3.X
 - 専用ソフトウェア : NACSIS-ELS専用WWWプラグイン・ソフトウェア
 - 備考: メモリ32MB以上を推奨します。
 - 2.2 DOS/V パーソナルコンピュータ [予定]
 - OS : Solaris 2.5.1 for x86
 - 専用ソフトウェア : Z39.50対応専用ブラウザ [開発予定]
 - 備考: メモリ32MB以上を推奨します。
 - 2.3 Apple社製PowerMacintoshまたはMacOS搭載機 [予定]
 - OS : MacOS (PowerPC)
 - 必要なソフトウェア : Netscape Navigator Version 2以上
 - 専用ソフトウェア : NACSIS-ELS専用WWWプラグイン・ソフトウェア [開発予定]
- プリンタ
論文のページを印刷出力する場合は、400dpiの画像出力の可能なプリンタ（例えば、ポストスクリプト・プリンタ）が必要です。
- 専用ソフトウェア
NACSIS-ELSのホームページ(<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>) または、
学術情報センターのanonymousFTPサーバ(<ftp://info.nacsis.ac.jp/pub/els/>) から
無料で入手できます。

※ ソフトウェアの開発状況など、最新情報は、NACSIS-ELSホームページ
(<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>) をご覧ください。

第17期日本学術会議の発足

～日本学術会議第126回総会報告～

平成9年7月22日から、第17期が開始されましたが、この第17期会員による最初の総会である「日本学術会議第125回総会」が、7月22日から24日までの3日間にわたって開催されました。

初日(22日)の午前は、辞令交付式が総理大臣官邸ホールで行われ、210名の会員のうち海外出張中等の18名を除く192名が出席しました。式は、橋本内閣総理大臣、梶山内閣官房長官、与謝野、古川両官房副長官、石出総理府次長等の出席を得て行われ、第1部から第7部までの全会員の名前が読み上げられた後、会員を代表して最年長である辰野千壽第1部会員が、橋本内閣総理大臣から辞令を受け取りました。この後、橋本内閣総理大臣が「会員の皆様には独創性豊かな学術研究の発展等のため、総合的観点に立って学術研究に係わる諸問題の解決に御尽力いただきたい」と挨拶し、これに応じて、辰野千壽第1部会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な職責を全うし、国民の期待に応えたい」と挨拶しました。午後は、日本学術会議講堂において、総会が開催され、会長、副会長(2名)の互選が行われました。その結果、会長には、吉川弘之第5部会員が、人文科学部門の副会長には、柏崎利之輔第3部会員が、自然科学部門の副会長には、佐々木恵彦第6部会員が、それぞれ選出され、吉川会長及び柏崎、佐々木両副会長からそれぞれ就任の挨拶がありました。続いて、各部会が開かれ、各部の部長、副部長及び幹事の選出等が行われました。

2日目(23日)は、午前10時から総会が開会され、伊藤前会長から第16期の総括的な活動状況が報告されました。伊藤前会長の報告は、OHPを駆使して非常にわかりやすい説明でした。総会終了後は、各運営審議会附置委員会、各部会等が開催されました。

3日目(24日)は、午前10時から総会が開会され、会長から「第17期活動計画の作成について」の申合せ案について提案があり、原案どおり可決されました。

続いて、第17期の活動計画についての自由討議が行われ、会員から活発な発言がありました。総会終了後は、地区会議合同会議、各運営審議会附置委員会、各常置委員会等が行われました。その後、運営審議会が開催され、第17期の活動計画の素案作成のために、運営審議会構成員の中から起草委員を選出し、審議に入りました。

また、総会初日の夕方に、総理府講堂において、橋本内閣総理大臣主催の日本学術会議第17期会員との懇談会が開催されました。懇談会は、橋本内閣総理大臣の挨拶で開会し、与謝野内閣官房副長官の発声による乾杯、吉川会長の答礼の挨拶の後、懇談に入りました。来賓として、佐藤通産大臣、近岡科学技術庁長官、藤田日本学士院院長ほか大勢の方が出席され、あふれんばかりの人々で歓談が続き盛会となりました。